

災害時外国人支援用バンダナについて

令和4年8月1日現在、市内の外国籍住民は10,355人で、約15人に1人は、外国籍住民となっています。小牧市地域防災計画では、外国人は要配慮者として位置づけられており、外国人に対する防災教育や多言語化の推進、支援ボランティアの育成などが必須となっています。

小牧市多文化共生推進室では、平成30年度より小牧市国際交流協会に委託して災害時外国人支援ボランティアの育成講座を実施しており、現在約60人がボランティア登録をしています。このバンダナは、令和3年度（昨年度）に開催した同講座の準備過程で出たアイデアから災害時の外国人支援ボランティアの目印として作成しました。

10月23日（日）午前9時30分から消防本部で開催する市国際交流協会主催の防災訓練にバンダナを着用したボランティアがスタッフとして参加します。

また、10月30日（日）に開催する市総合防災訓練、及び同日、味噌岡小学校（午前9時～）、篠岡小学校（午前9時～）、桃ヶ丘小学校（調整中）の3校で開催される地域住民が主体の防災訓練においても、このバンダナを着用したボランティアが参加する予定となっております。

1 バンダナの概要

- (1) 色及び大きさ 黄色 80×80cm
- (2) 表示言語 やさしい日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、フィリピン語、ウルドゥ語（9言語）で「お手伝いすることはありますか」と表示してあります。四隅に2言語+やさしい日本語で表示。
- (3) 特徴 オリジナルピクトグラムを印字。
支援者の得意言語が見えるように肩にかけられるサイズ。
肩にかける以外に、止血や腕の固定、風呂敷としても利用可能。

2 小牧市災害時外国人支援ボランティアの概要

- (1) 対象者 地域の防災に関心があり、日本語と日本語以外の言葉でコミュニケーションをとることができる人
- (2) 平時の活動 災害時外国人支援ボランティア講座受講、地域の防

災訓練などに参加、市から送られてくる防災・生活情報(メール)の拡散

- (3) 災害時の活動 自らが避難した場所で、外国人と市や避難所運営者の間に入って情報提供や情報収集、通訳を行う。



問合せ先 多文化共生推進室 0568-39-6527